



クローズアップ
CLOSE UP

花盛りの夜に光の演出

桜の開花に合わせて、ソーラーエコ大胡ぐりーんふらわー牧場でさくらフェスタを開催。4月12日・13日には、シンボルの風車に光を投影するライティングショーを実施しました。迫力のある音楽に合わせて色鮮やかな光を投影。訪れた多くの観客を魅了しました。



朔太郎の詩と酒に酔う

前橋文学館で「ロマンチックな飛翔 酒と詩人と人生と」を5月25日(日)まで開催しています。オープニングイベントの鏡開きでは、来場者に本県の地酒を提供。展示会場には酒にまつわる装飾が施され、ワークショップで参加者が作成した枡も展示しています。



来季に向け決意新たに

4月6日、群馬グリーンウィングスのホーム最終戦がヤマト市民体育館前橋で開催されました。結果は岡山シーガルズにストレート負け。試合後のセレモニーで角谷未波主将は「これからも愛され、もっと強くもっと勝てるチームをつくっていきたい」と来季の抱負を話しました。

いきいき
まえばし人
愛鳥週間ポスターコンクールで
総裁賞
松島 遥野さん・14歳
柏川中3年



好きなものにとりつけたけの情熱を

「好きなものにとりつけたけの情熱を」
昨年の夏休みに描いた棚田を泳ぐカルガモの親子の絵が、令和7年度愛鳥週間ポスター原画コンクールで最高賞の日本鳥類保護連盟総裁賞を受賞。5月10日(土)16日(金)の愛鳥週間に合わせて、松島さんの絵が啓発用ポスターとして全国に掲示される。「祖父が守ってきた棚田を背景に、県内でも多く見られる鳥で実際に棚田の近くにもいるカルガモを組み合わせました」
本当はカルガモの目や羽毛をもっと描き込みたかったという松島さん。制作期間は約20日間で、部活動がない日は1日中描くこともあったという。
「遠くの山は青く描いたり、奥は暗く手前は明るく描いたりして、実際に見える風景をそのまま表現するようにしました。また、カルガモに視線がいくようにあえて背景を描き込みすぎないようにしました」
幼少期は外遊びが好きで、絵を描き始めたのは小学生の頃から。「写生大会で金賞を取れなかったことが悔しくて絵を描き始めました。描くことが好きになり、たくさん描いているうちに写実的な絵を描けるようになりました」
松島さんは一つのことに集中して取り組む性格だそう。所属するバスケットボール部では副部長を務め、夢はプロバスケットボール選手。好きなものにはありったけの情熱を注ぐ松島さん。努力に裏打ちされた自信を武器に、夢に向かって突き進んでいく。

市国際交流員から見た本市の魅力や母国の文化などを紹介するこのコーナー。今回はフラとハワイの観光です。
フラは常にハワイ生活の一部となっているものの、本格的に習う人は少ないイメージですが、私にとつてフラは身近な存在で、こどもの頃から姉のパフォーマンスや練習をたくさん見てきました。ハワイ島で開催される世界的に有名なフラのフェスティバル「メリーモナーク」の他にも向けの「クイーンリリウオカラニケイキフラコンペティション」があり、姉が出場のために努力していたことを覚えています。また、ハワイの高校生の進学率が高いアメリカ本土の大学では、ハワイ出身の大学生間交流やハワイ文化の紹介を目的とするハワイクラブがあります。私の姉は大学時代ハワイクラブに所属し、恒例のハワイイベントではパフォーマンスを家族で応援



国際交流員
ライアン・リー
ニュースレター
Vol.15 フラとハワイの観光
文化国際課
☎ 027-898-6516



することができました。
ハワイを旅行する際は、一つの島を徹底的に観光するか、二つの島に行くかのどちらかをお勧め。私の出身地のオアフ島を観光したい場合、カネオヘ地区はローカル感が強く、現地の人々の日常生活が垣間見えます。また、日本人移民の移住100周年を記念し、1968年に京都府宇治市にある世界遺産の平等院を再現した平等院テンプルが建てられました。後ろにはきれいなコアラウ山脈がそびえ立ち、お薦めの観光名所。ハワイはただの観光地ではなく、普通の人々が暮らすアメリカの州の一つです。ハワイを訪れる際には、ポイントやルールを守ったり、自然環境やハワイ独特の生態系に生きる動物、ハワイ先住民の聖地とされる場所に対して、尊敬の気持ちを持って行動したりしてもらえるとうれしいです。